

大阪・関西万博開催に向けた意見

御所属 関西広域連合委員 京都市長 御名前 門川 大作 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、すべての人に健康と福祉を、というSDGsの理念にも重なる。大阪・関西万博が、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実証の場となることに期待する。
- 京都には、歴史、芸術、景観、食、ものづくりといった多様な文化や、大阪・関西万博のテーマにも合致する健康・ライフサイエンス分野の研究機関や企業等が集積している。万博を訪れた方々に関西の魅力に触れていただき、ファンになってもらい、繰り返し訪れていただくために、京都が貢献できる部分も大きいと考えている。
- また、2021年には「ワールドマスターズゲームズ2021 関西・ジャパン」が開催され、この大会の開会式は京都で行われる。ワールドマスターズゲームズのレガシーを大阪・関西万博にしっかりと繋げるべき。
- 更に、大阪・関西万博の成果を、その先の関西・日本の発展に繋げていかなければならない。一過性のイベントとすることなく、後世に何か残せるような仕掛けを考えていく必要があると考える。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 関西、特に京都においては、健康・医療の先端技術をはじめ、文化・芸術、歴史、食文化など、世界に誇る多くの資源がある。これらを最大限に活用し、万博を契機に大阪・関西の更なる魅力発信を図りたい。
- また、これらの資源の担い手は、大企業だけでなく、中小企業や伝統産業の担い手である一個人であったりする。あらゆる企業や人が参加し、持てる技術や魅力を発揮しやすい仕組みの構築を望む。これにより、多様性のある万博の実現に繋がる。京都市においては、地域企業の持続的発展を総合的に推進する「地域企業応援プロジェクト」を実施しているところであり、そうしたノウハウや知見を万博に生かしていきたい。
- 更に、関西には、2021年に京都に文化庁が全面的に移転するほか、徳島には消費者行政新未来創造オフィスが、和歌山には統計データ利活用センターが設置されるなど、地方創生をけん引している圏域である。こういった政府機関とも連携した取組を展開することで、日本全体の更なる活性化を導きたい。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- SDGs の理念を実証するためには、ビッド・ドシエにも記載があった「会場への来場者だけでなく、全世界の人々が遠隔で参加することができる」仕組みの実現が不可欠である。
- VR や ICT などの技術も近年目まぐるしく発展しており、これから 2025 年までの間に更に伸びると思われる。よりよい万博の実現と同時に、関西・日本の企業等と十分連携を図り、万博を契機に技術力の更なる強化が図れるように進めていただきたい。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 今後、万博開催に当たって、京都の都市特性を生かしてどのような取組をすべきか、経済界等と一緒に、オール京都でしっかりと検討していきたいと考えている。こういった各自治体の取組についても御支援をお願いしたい。
- また、サテライト事業の位置付けについても、検討状況等を含め、情報提供をお願いしたい。

以上